

アンコール

1885年創立
創立委員長
渋沢栄一

「渋沢栄一とガス事業」

—『公益追求』実践の軌跡—

会期：2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

本年2021年(令和3)11月11日は、渋沢栄一の没後90年にあたります。

この節目にあたる年に、昨年度末に当館で開催してご好評をいただいた、「渋沢栄一とガス事業 —『公益追求』実践の軌跡—」展をアンコール開催いたします。

近代日本経済の父とも称される渋沢栄一は、明治7年(1874年)、34歳の若き頃から、古希を迎えて第一線を退いた明治42年(1909年)までの35年間にわたり、東京のガス事業を主導していました。そして、常に公益追求の信念を貫きながら、民間の力としてガス事業を成長させることで、都市の経済と暮らしの繁栄を下支えし、近代都市東京の発展に大きく貢献しました。

本展では、4つのエピソードを中心に、渋沢栄一の公益追求への思いと、ガス事業を通じた実践の軌跡を描きます。前回の展示会から、一部資料を差し替えるとともに、渋沢栄一が設立に関わった事業が描かれた錦絵もご紹介します。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】 学芸員 高橋 豊

プロローグ

渋沢栄一 パリでガスと出会う

慶応3年(1867)、将軍徳川慶喜の弟の徳川昭武のパリ万博使節団の一人として、27歳の渋沢栄一はヨーロッパへ渡りました。

幕府が崩壊して急遽帰国となった翌年まで、徳川昭武の欧州各国訪問に同行し、様々な欧州の先端技術、社会組織や経済制度に接したことが、その後の栄一の行動に大きな影響を与えることとなります。

そして、栄一とガス事業との出会いは、パリのコンコルド広場でした。

近代都市の象徴として、広場を明るく輝かせていたガス燈に、栄一は深く感銘を受けました。さらに、街路の地下の共同溝にも潜るなど、都市インフラであるガス供給の仕組みについても注目していました。

3) 渋沢栄一 37才頃の肖像
龍門雑誌 第522号より
明治10年(1877)頃撮影

4) 東京瓦斯燈市街埋簡図絵
アンリ・プレグラン 明治7年(1874)

5) 写真「銀座街」
明治大正建築写真聚覧より
明治時代

6) 銀座商店夜景
井上安治 明治15年(1882)

7) 東京名所之内 銀座通煉瓦造鉄道馬車往復図
歌川広重(三代) 明治15年(1882)

Episode エピソード1

「夜を明るく」

東京の街に文明開化の明かりを灯すガス灯事業の創生

46) 図録「亥三号七輪」

「図録」東京瓦斯株式会社製作所より
明治45年(1912)

47) 亥三号七輪(エナメル仕上げ)
大正9年(1920)以降

コラム

48) 写真「東京高等商業学校」
青淵渋沢先生七十寿祝賀会記念帖より
明治時代

49) 写真「東京市養育院 板橋本院」
青淵遺影より
大正13年(1924)

50) 写真「東京深川区福住町渋沢家邸」
青淵先生六十年史 第二巻より
明治33年(1900)以降

51) 写真「深川邸書生部屋 書生とガス灯」
瞬間の累積より
明治35年(1902)撮影

52) 写真「日本橋区兜町一番地邸」
清水方建築家屋撮影より
明治21年(1888)以降

53) 写真「兜町渋沢邸」
明治大正建築写真聚覧より
明治時代

54) 東京真画名所図解 鎧橋遠景
井上安治 明治21~22年(1888-89)

55) 写真「兜町事務所の会議」
青淵先生餘香より
明治44年(1911)撮影

56) 写真「飛鳥山別邸玄関」
青淵渋沢先生七十寿祝賀会記念帖より
明治時代

57) 写真「飛鳥山邸西洋館前家族集合写真」
龍門雑誌 第522号より
明治33年(1900)頃撮影

58) 飛鳥山邸表門ガス灯頭部
明治時代

59) 飛鳥山邸玄関ガス灯写真
青淵渋沢先生七十寿祝賀会記念帖より
明治時代

60) 渋沢秀雄「ガス灯」コラム
社内報 がす 昭和28年10月号より
昭和28年(1953)

61) 商工大臣と会見後、新聞記者諸氏に囲まれて
青淵遺影より
昭和4年(1929)

62) 渋沢栄一
91才肖像「微笑」
龍門雑誌 第522号より
昭和6年(1931)

63) おもな参考文献
龍門雑誌 第522号「青淵先生グラフィック」 龍門社 1932年
龍門雑誌 第270号附録「青淵先生七十寿祝賀記念号」 龍門社 1910年
青淵先生六十年史 龍門社 1900年
「青淵渋沢先生七十寿祝賀会記念帖」 1911年
渋沢栄一滞仏日記 日本史籍協会 1928年
渋沢栄一事業年譜 龍門社 1985年
「瞬間の累積」 渋沢敬三 1963年
青淵先生餘香 瓜生喜三郎 1928年
明治大正建築写真聚覧 建築学会 1936年
東京瓦斯株式会社二十五周年記念写真帖 1910年
東京瓦斯株式会社 沿革及事業成績 1907年

64) エピローグ
生涯貫いた「公益追求」への思い
明治7年(1874)に東京のガス事業に関わってから
35年、渋沢栄一は、古希を迎えたのを機に、明治42年

2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

(1909)6月に、他の多くの企業の役職とともに、東京瓦斯の取締役会長を降りました。

実業の世界より身を引いた栄一ですが、その後に東京のガス事業が行政などとの間に問題を抱えると、自ら問題解決のために両者の間に立つこともありました。東京瓦斯は、第一次世界大戦後の不況と関東大震災の損害復旧資金逼迫による経営苦境のなか、震災復興にあわせて昭和4年(1929)にかけて増大した東京郊外部の住宅地27万戸のガス需要にも応えるため、設備投資にむけた資本増強が必要となりました。

認可元の東京市に資本増強の申請をおこないますが、市側は増資を拒否するとともに、ガス料金値下げも強く要求してきたため、市との紛糾は政府も巻き込む事態となり、その動向が新聞でも連日大きく紹介されました。その打開のため、89歳になった栄一が請われて、市と会社との調停役を担うこととなりました。

栄一は、昭和4年(1929)8月9日に当時の逓商工大臣と面談して、調停を進めようとしています。しかし、市側が栄一を受け入れず、調停は難航しました。最終的には、逓商工大臣が瓦斯事業委員会の答申をふまえて10月に裁定を下しました。

結果的にはこのとき会社の増資は認められませんでした。市と会社との積年の紛糾は、一応の決着となりました。

栄一が、高齢にもかかわらず、市民のために身をていして動いたことは、栄一が公益追求への思いを生涯貫いたことを示す、貴重なエピソードです。

後の回想で栄一は、
「…人情づくで解決させたいと望んだのであった。殊(こと)に市民が毎日使用して居る瓦斯の問題であるから、裁定を主務省に求めると云ふような法律的な争いにならぬ為に調停しやうとしたのである。」

との言葉を残しています。

61) 商工大臣と会見後、新聞記者諸氏に囲まれて
青淵遺影より
昭和4年(1929)

62) 渋沢栄一
91才肖像「微笑」
龍門雑誌 第522号より
昭和6年(1931)

63) おもな参考文献
龍門雑誌 第522号「青淵先生グラフィック」 龍門社 1932年
龍門雑誌 第270号附録「青淵先生七十寿祝賀記念号」 龍門社 1910年
青淵先生六十年史 龍門社 1900年
「青淵渋沢先生七十寿祝賀会記念帖」 1911年
渋沢栄一滞仏日記 日本史籍協会 1928年
渋沢栄一事業年譜 龍門社 1985年
「瞬間の累積」 渋沢敬三 1963年
青淵先生餘香 瓜生喜三郎 1928年
明治大正建築写真聚覧 建築学会 1936年
東京瓦斯株式会社二十五周年記念写真帖 1910年
東京瓦斯株式会社 沿革及事業成績 1907年

64) エピローグ
生涯貫いた「公益追求」への思い
明治7年(1874)に東京のガス事業に関わってから
35年、渋沢栄一は、古希を迎えたのを機に、明治42年

2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

Episode エピソード 2

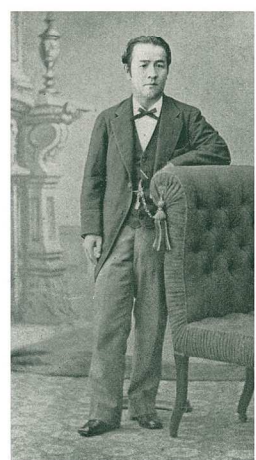
「商いを明るく」

室内照明の需要開拓で黒字転換しガス民営化

(東京瓦斯会社創立)

明治10年(1877)にガス街灯費を東京府で負担するようになり経営基盤が安定すると、大口需要家への屋内ガス灯設置費用の一部分割支払いなどの積極的な営業策を展開し、室内照明需要の獲得によるガス販売量拡大に務めました。

また、ガス製造設備増強のための投資も行い、事業発展の基を築いていきました。明治12年(1879)には、早くも将来の民営化を目標として、明治14年(1881)に一度は東京府議会で民間の払い下げが決議されます。しかし、渋沢栄一は公費で運営を支えてきたガス事業を赤字のまま安価に払い下げることには反対し、一旦、払い下げは見送られました。

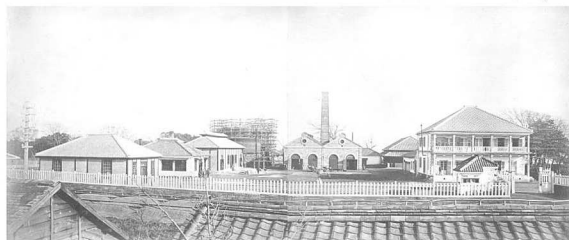


明治16年(1883)、さらに設備を増強して販売量増加に対応するとともに、上海の瓦斯会社へ日本人技術者を派遣して実地研修をおこなうなど、民営化に向けた努力を続けました。その結果、短期間で事業の黒字化に成功し、民間会社として明治18年(1885)10月1日に東京瓦斯会社が創立されました。

8) 渋沢栄一 43才肖像

龍門雑誌 第522号より

明治16年(1883)撮影



9) パネル「東京府瓦斯局外観」

明治11年(1878)頃

10) 東京瓦斯会社

銅版画 東京名所より

明治30年(1897)

11) 写真「新富座」

明治大正建築写真聚覧より

明治時代

12) 東京名所図絵 新富座開業式花瓦斯燈

歌川広重(三代) 明治11年(1878)

13) 写真「鹿鳴館」

明治大正建築写真聚覧より

明治時代

コラム

14) 海運橋(第一国立銀行)

小林清親

明治初期

15) 東京大日本名勝之内 自鳥飛山眺王子製紙会社

勝山英三郎 明治24年(1891)

16) 東京銘勝会 上野鉄道館

歌川国利 明治19年(1886)

17) 東京大日本名勝之内

山下御門内帝国ホテル真景

勝山英三郎 明治24年(1891)

Episode エピソード 3

「都市の経済を力強く」

都市経済の発展をエネルギーインフラ増強と

新技術利用で後押し

明治20年代に入ると、渋沢栄一が率いる東京瓦斯は、都市の発展に呼応する形で積極的な経営施策を展開し、経済の発展と企業の発展が両輪となった成長を遂げます。

需要拡大においては、街灯をはじめとした屋内外照明分野の普及拡大策に加えて、ガスを燃料とする新技術の動力源として、欧州から「瓦斯機関(ガスエンジン)」を輸入し、印刷機や織機、各種工場等の都市産業の動力・発電用途として利用拡大を図っていきます。

街発展に伴う需要に応えるため、明治23年(1890)

に千住の第二製造所の建設を決定し、明治26年(1893)から操業を開始、明治31年(1898)には、深川に第三製造所を稼働させます。さらに、東京南部方面にガス供給網を広げるため、明治41年(1908)には大森に製造所を設け、品川八ッ山橋にガス管を渡し、大森付近では太いガス管に入れ替える増強工事などをおこない供給量増加に対応していきます。

18) 渋沢栄一 58才肖像

龍門雑誌 第522号より

明治31年(1898)撮影

19) 写真「大森町浜川往還 36インチ

鑄鉄管理設の光景」

東京瓦斯二十五年記念写真帖より

明治43年(1910)

20) 写真「ガスエンジンを

設置した町の鑄物工場」

昭和初期

21) 写真「カタログ 瓦斯機関案内」

東京瓦斯株式会社 明治41年(1908)

22) 引札「原動力瓦斯機関」

東京瓦斯株式会社 明治40年代

23) イラスト「瓦斯鉄道」

24) 第二製造所(千住工場)新築石炭竈室

明治37年(1904)



25) 新築石炭竈室前の役員

明治37年(1904)

26) 写真「品川八ッ山橋

24インチ鋼鉄管架設の図」

東京瓦斯二十五年記念写真帖より

明治43年(1910)

27) 写真「麻布区桜田町通り

12インチ鑄鉄管理設の光景」

東京瓦斯二十五年記念写真帖より

明治43年(1910)

Episode エピソード 4

「暮らしを豊かに」

一般家庭向けに新たな生活価値を創出した国産

ガス機器の投入

明治20年(1887)に東京で電燈事業が開始され、ガス燈の新たな競争相手となりました。しかし、当時の電燈は電球の寿命の短さや停電のリスクから、ガス燈が依然優位であり、明治30年代から大正初期にかけてガス燈は全盛時代を迎えます。

一方で渋沢栄一は、明治29年(1896)に、技師長である中川五郎吉をガス事情調査のため欧米へ派遣し、「今後のガス需要は『熱源利用』が主流となる」との認識を得ます。

この結果をふまえ、「一般家庭の炊事用途向けにガスを普及させる」方針を決定し、ガス燈が優位であった明治30年(1897)から既に、ガス熱源利用の新分野開拓へと踏み出していました。



家庭用の炊事需要創造の端緒となったのが、日本の食生活に欠かせない炊飯分野でした。東京瓦斯は自社で日本初の国産品開発に取り組み、明治35年(1902)に国産ガス機器の特許第1号「瓦斯かまど」を発売します。

さらに、暖房分野(瓦斯火鉢)、風呂分野(瓦斯風呂)でも国産ガス機器の開発を進めていきます。

28) 渋沢栄一 70才肖像

青淵先生七十寿祝賀記念号より

明治43年(1910)

29) 写真「瓦斯館陳列室(其一) 会社製品」

東京瓦斯株式会社 沿革及事業成績より

明治40年(1907)

30) 絵葉書「東京勸業博覧会 瓦斯館」

明治40年(1907)

31) 絵葉書「東京勸業博覧会 瓦斯館 夜景」

明治40年(1907)

32) 写真「中上川邸の台所」

東京瓦斯二十五年記念写真帖より

明治43年(1910)

33) 引札「たった一本のマッチで」

東京瓦斯株式会社 明治30年代後半

34) 写真「製作所神田工場」

東京瓦斯二十五年記念写真帖より

明治43年(1910)

35) 写真「角形瓦斯風呂」

カタログ「瓦斯器具案内」より

明治43年(1910)

36) 写真「桶形瓦斯風呂」

カタログ「瓦斯器具案内」より

明治43年(1910)

37) 写真「北里柴三郎邸浴室」

東京瓦斯二十五年記念写真帖より

明治43年(1910)

38) 4升炊きガスかまど

明治後期

39) 瀬戸火鉢(草花模様)

大正時代

40) 写真「瓦斯火鉢」

カタログ「瓦斯熱用具」より

明治41年(1908)

41) 特許證「瓦斯竈」(がすかまど)

明治35年(1902)

42) 写真「松印瓦斯竈」

カタログ「瓦斯営業案内」より

明治37年(1904)



43) 大隈重信伯爵邸の台所

村井弦斎「増補注釈 食道楽 春の巻」より

明治36年(1903)

44) 図録「亥三十号一灯下向腕金物」

「図録」東京瓦斯株式会社製作所より

明治45年(1912)

45) 亥30号一出腕ランプ

昭和2年(1927)